【全体的な計画】　奈良教育大学附属幼保連携型認定こども園

こども園の理念	○持続可能な開発のための教育（ESD）の推進拠点である奈良教育大学と連携しながら、「予測不可能な未来を生き抜き、仲間とともに新たな価値を創造できる持続可能な社会の担い手となる子ども」を育成する。 ○主体的・対話的な教育・保育活動を基盤として、一人一人の子どもの資質・能力が十分に発揮できる環境を整え、子どもを「自ら育とうとする存在」として捉え、子どもをリスペクトし「子どもの横に並び、子どもと保育者が共に創り出す教育・保育」の実践を図る。	教育・保育目標	［地球の中で］持続可能な未来に向けて、保育者とともに考え、行動する子ども ↑ ［自分から］主体的に行動してなじみの世界を広げ、自分でやったという充実感を感じながら生活する子ども ［創造する］試行錯誤を繰り返しながら探究し、新しいものや自分なりの考え、方法を創造し表現する子ども ［人とともに］ありのままをわかりあい、分かちあい、活かしあう子ども

		0歳児	1歳児	2歳児	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児
子どもの姿		特定の大人との安定した関係の中で、体の動きや泣き声、喃語等で自分の欲求を伝えようとする。食事の時間、睡眠の時間が次第にそろい、それぞれの子どもの生活リズムができる。寝返り、座る、這う、立つ等体を動かすことが楽しくなる。	遊びや生活のリズムが整ってきて、遊びの時間が充実してくる。午睡が1回となる。食事や着替えなど、生活の中で毎日行うことを「自分でしたい」と自己主張するようになる。身の回りのものやことに興味関心（好奇心）をもってかかわろうとする。	食事や睡眠、排泄や着替えなど自分でするようになっていく。身近な環境に働きかけて遊びこむようになる。クラスの保育者や友だちなど身近な人とのかかわりを喜ぶようになる。	はじめての集団生活を経験する子どもが多い。家庭以外の場でも安心して過ごすようになり、身近な環境に働きかけて遊びこむようになる。クラスの保育者や友だちなど身近な人とのかかわりを喜ぶようになる。	進級児と新入児がおり、進級入園当初は経験の差が大きいが、クラスの友だちと遊びや生活の場を共有する中で、気持ちを共有し、かかわりが増え、友だちと一緒に遊んだり生活したりすることを楽しむようになる。	自分のしたい遊びを存分に楽しみ、目的をもって考えたり工夫したりするようになる。いろいろな友だちとのかかわりの中で自分の思いを表したり、様々な思いに触れたりしながら自分達で遊びを進める楽しさを感じるようになる。	クラスの友だちのことが互いにわかり、話し合ったり、協力したりしながら自分達で遊びや生活を進めていくことを楽しむことができるようになってくる。一つの目標に向かって、協力しあい、充実感や達成感を味わうようになる。
年間のねらい　養護	生命の保持	○生理的欲求を満たし、安定した生活リズムをつくり、快適に生活できるようにする。	○生理的欲求を満たし、生活リズムが形成されるよう援助する。	○安全で快適な生活環境の中で、身の回りのことを自分でしようとする気持ちを育てる。		○健康で安全な生活に必要な習慣を身に付けられるように、子どもの意欲や態度を支援する。	○健康で安全な生活に必要な習慣に関心をもち、自らできるための意欲や態度を支援する。	○健康で安全な生活に必要な習慣を身に付け、自ら進んで行動できるようにする。
年間のねらい　養護	情緒の安定	○応答的なかかわりの中で安心して過ごすことができるようにする。	○子どもの思いに共感し、触れあい、語りかけることにより、安心して自分の気持ちを表すことができるようにする。	○様々な自己主張を受けとめ、一人一人の気持ちに共感し、自我の育ちを援助する。		○子どもの気持ちを考え、受けとめ、自我の形成と共に、主体的な行動や探索意欲が高められるようにする。	○自己肯定感を育み、他者を受容する気持ちを育てる。	○心身の調和と安定により、自信をもって行動できるようにする。
年間のねらい　教育・保育	地球の中で	【世界を広げる】　【つながりに気づく】　【参加・参画】						
年間のねらい　教育・保育	自分から	○身近な環境に興味、関心を持ち、主体的にかかわる。 ○生活や遊びの中で出会う様々な物事に親しみ、楽しんで取り組む。	○安定感をもって、行動する。 ○自分のやりたいことに向かって伸び伸びと取り組む。	○身の回りのことを自分でやりたいと思う ○自分のやりたいことに向かって遊び込む		○生活に見通しをもって行動する。 ○自信をもって行動する。	○自分で考え、自分で行動する。 ○自分らしさを大切にする。	○自分の行動に責任をもつ。 ○自分の感情や行動を統制する。
年間のねらい　教育・保育	創造する	○ものごとの性質や仕組みに気付く。 ○自分の身体や外界に興味関心をもち、不思議に思う。	○行動と結果に気付き、何度も試しながら工夫して遊ぶ。 ○豊かな感性で、表情や動きを使って表現を楽しむ。	○新しい組み合わせを、何度も試しながら工夫して遊ぶ。 ○新しいことや、アイデア、方法を思いつく。		○大きい小さいなど、2つの組み合わせを比べたり、関連付けたりしながら考える。 ○考えたことを形にする喜びを味わう。	○2つ以上の物事の関連に気付き、自分なりに比べたり、関連づけたりしながら考える。 ○予測して確かめ、試行錯誤を重ねて探究する。	○多面的な視点から考え、思考を広げて深める。 ○粘り強く取り組み、失敗してもやりとげようとする気持ちをもつ。
年間のねらい　教育・保育	人とともに	○特定の保育者に、愛着や信頼感をもつ。 ○表情や動きで人と気持ちを通わせようとする。	○様々な人がいることに気付き、関心をもつ。 ○表情や動き、言葉で人と気持ちを通わせようとする。	○保育者や友だちに親しみ、愛情や信頼感をもつ。 ○自分の気持ちを簡単な言葉で表現し、伝え合う喜びを味わう。		○自分や他者のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 ○自分の気持ちを相手に伝え、相手の気持ちに気付く。 ○自分の行動で他者が喜び、自分が役に立つ喜びを感じる。	○友だちと共通の目的を見いだして、協力して取り組もうとする。 ○自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 ○役割を果たす中で、自分が役に立つ喜びを感じる。	○友だちと共通の目的をもって、協力して取り組み、達成感を味わう。 ○一緒に生活し楽しむ中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ○公平・公正の感覚を身に付ける。
年間のねらい　基盤となる体験	興味・関心	○興味関心をもって様々な環境（ひと・もの・こと）にかかわる／園生活を楽しむ　○園庭や地域の自然に親しむ／五感を使い、さまざまな感覚を味わう　○喜んだり、泣いたり、怒ったり、さまざまな情動を体験する／気持ちや思いを他者と共有する（共感）						
年間のねらい　基盤となる体験	安心・安定	○園にかかわるすべての人が多様なままに受け入れられ大切にされて過ごす　○園という環境（ひと・もの・こと）に慣れ親しみ、安心して過ごす　○一人ひとりのものの見方や考え方を大切にされ、安心して表現する　○ただ存在する喜びを感じる　○くつろいで過ごし、心身の疲れが癒される						
年間のねらい　基盤となる体験	安全・健康	○生理的欲求が、十分に満たされる　○のびのびと体を動かし、さまざまな運動を楽しむ　○保育者とともに病気の予防や基本的な生活習慣の形成に取り組み、健康に気をつけて過ごす　○危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、保育者とともに安全に気をつけて行動する　○自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる						
内容	健やかに伸び伸びと育つ	・寝る、食べる、排泄する、安心する等、生理的欲求が十分に満たされ、心地よさを感じる。 ・一人一人の生活リズムを大切にされ、心地よく生活する。 ・離乳を進めていく中で、様々な食品に興味をもち、食べることを楽しむ。 ・手を伸ばす、寝返りをうつ、はうなど体を動かすことを楽しむ。	※左記0歳児の3つの視点と右記5領域はセルの区分通りに対応はしていない 健康 ・生理的欲求を適切に満たされ、安定感をもって生活する。 ・食事や着替えなど、生活の中で毎日の繰り返しを経験する。 ・午睡や排泄などの生活のリズムが安定する。 ・歩く、走る、上る、下りる、またぐなど自分で行動できる喜びを感じる。 ・様々な食品や調理形態に慣れ、食べることを楽しむ。	・健康な生活のリズムを身に付ける。 ・戸外での遊びの楽しさに気付き、進んで戸外へ出ようとする。 ・保育者や友だちと食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。 ・身の回りの清潔を保つ習慣が少しずつ身につく。 ・自分から体を動かすことを楽しみ、走る、跳ぶ、バランスをとる等、様々な動きをする。 ・便器での排泄にも慣れる。	・保育者や友だちと触れ合い、安定感をもって行動する。 ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ・身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などを自分でしようとする。 ・進んで戸外で遊び、様々な動きを楽しみ、自分のイメージした通りに身体を動かす喜びを知る。	・登園の準備から降園まで、園生活を自分たちで進めていく。 ・新しいことに挑戦し、充実感や満足感を味わう。 ・危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する。 ・基本的な生活習慣を身に付け、自分でできたことに自信をもつ。 ・園にある様々な遊具や用具の使い方がわかり、自分から体を動かして遊ぶ。	・互いに声を掛け合いながら園生活を進めていく。 ・自分の情動や欲求を制御する力が芽生える。 ・体の使い方が難しい遊びにも諦めずに繰り返し挑戦する。 ・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。
内容	身近な人と気持ちが通じ合う	・声や表情、動きが人とのかかわりを生むことに気付く。 ・保育者の応答的なかかわりで欲求が満たされ安心して過ごす。 ・保育者や他児と一緒に過ごすことに心地よさを感じる。 ・特定の保育者に対して愛着を形成し、自己を肯定する気持ちの芽生えが生じる。 ・泣いたら優しくかかわってもらえることがわかり、落ち着く。 ・身体の動きや表情、発声、喃語をやさしく受け止めてもらい、保育者とのやり取りを楽しむ。 ・保育者による語り掛けや歌い掛け、応答的なやり取りを通じて、言葉の理解や発語への意欲が育つ。 ・保育者と一緒に同じものを見たり、同じものにかかわったりする。	人間関係 ・愛情豊かで応答的なかかわりの中で、安定感をもって過ごす。 ・保育者や友だちとやりとりすることを楽しみ、自分からかかわろうとする。 ・簡単な見立て遊びやふり遊びを保育者と一緒に楽しむ。 ・園での生活を保育者や友だちと繰り返し、きまりがあることに気付く。 ・大好きな保育者を見て真似て遊ぶ。"	・保育者や友だちと一緒に活動する心地よさを感じる。 ・友だちや保育者と簡単なやりとりをしながら一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・生活習慣や片付け、順番などの簡単なきまりやルールを知って動こうとする。 ・保育者や友だち、年長児などがしていることを真似たり、簡単なごっこ遊びを楽しんだりする。□	・自分や他者のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 ・友だちと喜びや悲しみを共感し合う。 ・自分の気持ちを相手に伝え、相手の気持ちに気付く。 ・自分でできることは自分でしようとする。 ・同じものを友だちと共有して使う。 ・地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。	・グループやクラスでの活動を通して役に立つ喜びを味わう。 ・よいことや悪いことに気付き、考えながら行動する。 ・友だちとかかわる中で、イメージや思いを共有し、共通の目的を見いだす。 ・友だちそれぞれの違いや多様性に気付く。 ・友だちとのかかわりを深め、思いやりをもつ。 ・学級の中で自分の思いを主張する。 ・決まりを守って生活することの心地よさを知る。 ・遊具や用具を大切にし、皆で使う。 ・地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人にかかわる。	・友だちと一緒にやり遂げる満足感や達成感を味わう。 ・友だちそれぞれの違いや多様性を認め合う。 ・友だちと遊びの場や遊びに必要なものを作り、自分達で考えたことを実現していくおもしろさを味わう。 ・きまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ・学級の中で、お互いの思いを主張し合い、折り合いをつける。 ・学級全体でそれぞれの良さを発揮しながら協同して遊ぶ。 ・地域の人々などと行う活動に参画する。
内容			環境 ・探索活動を通して、感覚の働きを豊かにする ・園にある玩具やその他の遊具に興味をもち、それらを使って繰り返し遊ぶ。 ・園庭の動物や植物、自然に気付き、見たり、聞いたり、触ったり、嗅いだりして親しむ。 ・季節の移り変わりを感じる。	・身近な生き物や植物などの自然物を見たり、触れたり、使って遊んだりする。 ・自分のものと他者のものの区別がつき、片付けの場所がわかり、環境を整える感覚が育つ。 ・園全体を使って遊び、場所的感覚が育つ。 ・多様な園にある遊具や用具を使って遊ぶ。 ・形や色、大きさ、量など、物の性質や仕組みに気付く。 ・地域に出かけて、その生活や行事などに興味や関心をもつ。	・自然に触れて遊ぶ中で、大きさや形の違いに気付き、美しさや不思議さを感じる。 ・様々な物の性質や仕組みに興味をもって遊びに取り入れる。 ・生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。 ・身近な物や遊具に興味をもち、自分なりに比べたり、関連付けたりし、試したり工夫したりして遊ぶ。 ・身近な物を大切にする。 ・生活の中で、地域社会の伝統的な文化に親しむ。	・身近な生きものや草花や実などを見たり触れたり遊びに取り入れたりして大切にしようとする。 ・科学にかかわる用語を使い、その考え方に親しむ。 ・少し難しいことに挑戦することを楽しみながら、自分なりに仮説を立てて試したり工夫したりして遊ぶ。 ・数量や図形、標識や文字などに興味をもち、人や生活とのつながりを知る。	・生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。 ・失敗しても粘り強く取り組み、経験や知識と照らし合わせながら試行錯誤してエ夫する。 ・数量や図形、標識や文字などを自分達の生活に取り入れようとする。 ・様々な国や国旗に関心をもち、親しむ。 ・身近な地域や世界、過去や未来に興味をもって、自分にできることを考え、かかわろうとする。 ・公共の施設など地域資源を活用し、豊かな生活体験をする。
内容	身近なものとかかわり感性が育つ	・音や形、色、手触りに気付き、感覚の働きを豊かにする。 ・保育者と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る。 ・保育者のあやしや遊びに機嫌よく応じ、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。 ・様々なものに五感を通してかかわる。 ・玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。 ・身の回りの物事や自分の体に興味をもち、見たり触れたりなめたりして遊ぶ。 ・引っ張る、取り出す、打ちつける、たたくなどの興味や好奇心をもった遊びを繰り返し楽しむ。	言葉 ・簡単な言葉や身ぶりで自分がしたいこと、してほしいことを伝える。 ・生活や遊びに必要な簡単な言葉がわかり聞き分ける。 ・親しみをもって日々の挨拶をする。に応じる。 ・絵本に興味をもって楽しむ。	・伝えるための言葉、やりたいことのための言葉、遊びや生活の中で必要な言葉を使おうとする。 ・簡単な言葉を使ってごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者の言葉を聞こうとする。 ・自分から挨拶をしたり、覚えた言葉を使って話したりする。□ ・保育者の仲立ちにより、言葉でやりとりする喜びを経験する。 ・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり模倣をしたりして遊ぶ。"	・自分が経験したことや見たこと、思ったことなどを喜んで話す。 ・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、わからないことを尋ねたりする。 ・保育者や友だちが話している内容に興味や関心をもち、聞こうとする。 ・生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。 ・絵本や紙芝居などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。	・自分が知っていることや経験したことを、相手に分かるように話そうとする。 ・自分の思ったことを言葉にして伝え、相手の言葉も聞いて理解する。 ・気持ちや考えを言葉で伝えあい、抽象的な言葉をふくむ多様な言葉を使う便利さ、面白さを知る。 ・いろいろな体験をしたり、絵本などに親しむことを通じてイメージや言葉を豊かにする。	・友だち同士で思いや考えを聞き合い、相談しながら遊びや生活を進める。 ・文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを感じる。 ・物語の世界に没頭して味わい、想像と現実の世界を行き来し、豊かな体験を膨らませていく。
内容			表現 ・様々な素材に触れ、その音や形、色、手触り、動き、味、香りなどに触れて楽しむ。 ・音やリズム、それに合わせた体の動きを楽しむ。 ・歌や簡単な手遊びを楽しむ。 ・表情や動き、全身を使って表現することを楽しむ。	・生活の中で様々な音、形、手触り、動きなどに触れ、気付いたり、感じたりする。 ・みんなで一緒に、音楽やリズム、それに合わせた体の動きを楽しむ。 ・様々な素材を使って自分なりの表現を楽しむ。 ・歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。 ・自分なりのイメージをもってごっこ遊びをしたり、何かになって動いたりして遊ぶ。 ・生活や遊びの中でのでき事をイメージして興味のあることを自分なりに表現する。	・生活の中で美しいものや心を動かすでき事に触れ、イメージを豊かにする。 ・感動したことを保育者に喜んで伝える。 ・興味のあることや経験したことなどを様々な方法で表現する。 ・様々な素材や用具を使い、かいたりつくったりして遊ぶ。 ・音楽に合わせて体を動かしたり、歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりすることを楽しむ。	・遊びに必要なものをかいたり、つくったりすることを楽しみ、使ったり飾ったりする。 ・表現を豊かにするために、どのような工夫ができるのかを考える。 ・感動したことを友だちと伝え合う楽しさを味わう。 ・音楽や歌を自分たちで工夫して楽しむ。	・クラスのみんなとイメージを共有し、動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。 ・繰り返しの練習が必要な楽器や歌などにも粘り強く取り組み、よさを追求する。 ・工夫してつくったり、描いたりしたものを、地域の人々など、多くの人に知ってもらう。
食育		・ゆったりとした雰囲気の中で、心地よく飲んだり食べたりし、食べようとする気持ちを大切にする。また、離乳食について園と家庭で話し合いながら、無理のないよう進めるようにする。	・様々な食品や調理形態に慣れ、自分で食べたい気持ちや意欲をもって、自分で食べられるようになる。	・いろいろな食材があることを知り、友だちや保育者と食べることの楽しさを味わい、食べることへの意欲が高まる。準備や片付け、箸の使い方、食べる姿勢など、食事における基本的習慣やのマナーを身に付ける。	・野菜の栽培などを通して、食材への興味や関心が育つ。また、みんなが楽しく心地よく食べるための食事のマナーについて知り、友だちや保育者と一緒に楽しく食べらる楽しみを味わう。	・自分の体と食べ物の関係に気付き、いろいろな食材や栄養、調理法に興味をもち、初めての食材を含め、多様な料理を食べる喜びを味わう。 ・野菜の栽培等を通して、植物の生長に興味をもち、食べ物の大切さや食べ物の旬に気付く。	・食べ物の栄養と体や健康との関連に興味や関心をもち、バランスよい栄養をとる大切さを知り、自らいろんな食材を食べてみようと思う。 ・食事ができるまでの過程に興味をもち、食材や食事を作る人に気持ちを向けらる。
保護者支援		・園と家庭で一日の生活リズムや子どもの様子を共有し、保護者が安心感をもてるようにするとともに、子どもが自分の生活リズムで無理なく健康に過ごすことができるようにする。	・衣服の着脱や食事、排泄などについて、家庭とともに無理なくすすめる。 ・「かんしゃく」や「自分でしたい」などの姿を成長として受けとめることの大切さを保護者と共有し、保護者の気持ちにも寄り添う。	・自己主張や葛藤する子どもの姿を保護者に伝え、ゆったりとした気持ちでかかわれるよう支援する。・子どもの発達等について気になることがある場合は、奈良市や専門機関と連携を取りながら、個々の発達に寄り沿って必要な支援を考えていけるようにする。	・進級時の環境の変化（クラスが2つにわかれること・新入園児との出会いなど）による保護者の気持ちを受けとめ、子どもの様子を丁寧に伝えたり、家庭での様子を聴いたりしながら、信頼関係を築く。	・クラスの人数が大きく増えることでの環境の変化による、保護者の気持ちを受けとめ、信頼関係を築くことができるよう、意識的に声をかけたり、保護者から話しかけやすい雰囲気付くりをする。	・就学への様々な気持ちを丸ごと受けとめ、期待をもったり安心したりして過ごすことができるようにする。必要な場合には、各市町村が行う教育相談を勧めたり、進路について話し合ったりしながら、保護者とともにそれぞれの子どもにとっての就学について考える。

重点的に取り組む教育・保育

長時間保育（なかよしタイム）	地域の子育て家庭への支援	家庭との連携・保護者支援	地域との連携（地域支援）	小学校との連携	大学との連携
ゆったりとしたくらしを基礎として、一人一人がやりたい活動に取り組み、多様な人とつながることを通して、教育時間での学びとの好循環を目指す。 くくらしゃゆったりとしたくらしの中で、明日へと向かう力を蓄えるとともに、異年齢集団のくらしの中で自分の役割を果たすことで自信をつけ、主体的に取り組む力を育む。 ＜遊び＞長い時間遊びを継続することで、遊びを広げたり深めたりし、それを再び教育時間に返していくことで相乗効果を生む。時に、次の日の遊びの活躍者になるきっかけともなる。 ＜人＞異年齢の子どもや担任以外の保育者とのかかわりを広げて深めることで、教育時間においてもクラスを超えて多様な仲間や保育者とかかわる楽しさを知り、協同する力を育む。	子どもの成長に気付き、子育ての楽しさを感じられるようにする。 ・未就園児クラス「すくすくくらぶ（ベビー/めぼえ/わかば）」の実施 / ・未就園児園庭開放（週1回） ・妊婦と家族、パートナー対象 「カムカムベビー　フェアー」の実施	保護者の自尊感を尊重し、保護者が子どもを肯定的にみることができるよう働きかけ、子どもの成長を一緒に喜ぶ。保護者の思いを受けとめ、自己決定を尊重する。 子どもと自分の成長を確認して自信をもち、次のステップへ進めるように援助していく。保護者同士の関係づくりも大切にする。 ／生活調査票等により家庭での生活の様子を知り、子どもにかかわるようにする。／・園だより　・クラスだより　・保健だより　・保育参観　・クラス懇談会 ・個人懇談　・給食試食会 ・保護者アンケート　・園長による誕生月のバースデートーク ・ICT活用（家庭との連絡アプリによる園児の登降園管理、及び保護者への手紙配信、身体測定などの個人記録配信）／・在園児の保護者の子育て支援（預かり保育実施、奈良市より園巡回、園訪問、スクールカウンセラーによる相談、ホームページに写真を掲載、関係機関との連携（市町村子ども福祉部局、療育施設　他））	地域の人材や資源を積極的に活用すると共に、地域に開かれた園づくりに努める ・飛鳥地区との連携　・未就園児園庭開放（週1回） ・世界遺産学習（東大寺大仏さまのお話と遠足） ・鹿苑の鹿にドングリを届ける　・外部講師によるお話の会（絵本・紙芝居の読み聞かせ）　・大学生との交流　・大学施設の活用	子どもにとってなめらかな小学校生活への移行ができるよう連携をはかる。 ・幼小連絡委員会　・小学校教諭による保育参観 ・こども園教員による授業参観　・教職員の合同研修会 ・小学校教諭による保護者への話（小学校生活について） ・年長児の小学校体験、授業参観	大学附属として、保育、研究、教育実習等、連携することで、子どもの経験を豊かにすることや、保育の質の向上に努める。 ・教育実習 ・大学授業において、保育参観を受け入れたり、保育についての話をする。保育環境を見せる。授業の中での子どもとの触れあい。 ・卒論観察、インタビュー等の受け入れ ・研究

保健・衛生管理	安全対策・事故防止	インクルーシブ保育	ICTの活用	職員の資質向上	自己評価
・健康観察　・欠席状況確認 ・感染症サーベイランス報告　・アレルギー及び既往歴の把握対応　・感染症予防対策　・食中毒予防対策　・砂場の握り粘こし・消毒（月１回）　・各保育室救急箱薬品点検 ・手洗い場・トイレなど衛生点検　・室内外の整理整頓、清掃　・害虫駆除　・水遊び・プール遊び時の救急体制と健康管理・水質管理　・熱中症予防（熱中症計）・水分補給（適宜声掛け）　・身長体重測定（隔月）・健康診断の実施と事後措置　・視力検査及び事後措置　・新入園児健康診断　・就学時健康診査後の健康相談　・うがい手洗いの励行・換気の励行　・かぜ・インフルエンザ等罹患者把握　・養護教諭による保健指導　・学校薬剤師による検査（飲料水水質/プール水質/照度・空気・騒音・ダニ）　・午睡時の呼吸、表情確認	安全に過ごすための環境づくりに配慮し、子どもたちが自分の身を守る力を育てる。 ・毎月避難訓練（火災、地震、不審者対応）の実施 ・飛鳥地区との連携（あすか安全ネットワーク・あすか校区少年指導者協議会）、飛鳥地区一斉降園　・施設内外の設備、用具等の清掃 ・子どもや保護者への交通安全指導、生活安全指導　・施設内外の設備、遊具、用具等の安全管理及び自主点検　・災害時の引き渡し訓練の実施 ・養護教諭による健康、安全の指導 ・遊具設置業者による遊具安全点検	・子どもの国籍や宗教、障がいの有無などに関係なく、子どもを受け入れて一緒に過ごす。 ・関係機関と連携を図りながら個別の支援を行う。 ・一人一人の発達に応じた個別の指導計画を作成し、その子にふさわしい園生活を送ることができるよう支援する。 ・教職員間で連携し、一人一人の子どもの個性を共通理解し、その子に合った支援を模索する。	ICTを活用（子どもの効果的な学びへとつなげるため／保護者支援のため／保育者の業務改善） ・校務支援システムを活用 ・各保育室に大型プロジェクタを設置し、活用。日々の保育の中でクラスで共有したい事柄を、写真、タブレットを用いての絵や文字、動画等でスクリーンに映して共有する。 ・写真、動画を撮影し、記録する。	キャリアステージに合わせた個々の学び、同僚性を基盤とした協同的な学びができるような体制や意識を形成する。 ・公開保育研究会での保育公開、参加者との討議　・フォトチャット研修会を外部機関からの依頼で実施　・他園の保育を観察、事例収集などを行い研修　・研修会への参加　・園内研修　・自己評価　・日常的に子どもの姿や保育の写真を撮影し、記録する　・期ごとに保育を振り返り、指導計画にいかす	保育の構造および質に関して、省察を行い、改善を行う。 ・基本理念や教育・保育目標・全体的な計画・事業計画の策定と公開　・年間計画の作成と評価　・保護者アンケート（毎年）の実施　・全体的な計画の明示　・保育者等の評価（自己評価チェックシートによる自己評価）　・保育内容等の評価